

アーカイブズ

# ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第54号 平成30年2月14日発行



## 国頭村 宜名真

1947～1951年(昭和22～26)の間に茅打ちバンタから撮影。海岸に面した集落には、かやぶきの家屋が並び、山の斜面には段々畑が広がる。現在海岸沿いの道は、国道58号となり宜名真漁港が整備されている。

W. E. ジェンキンス資料【0000086414 2073】

# 公文書館のしごと 第3回 保存業務

## 環境管理

高温多湿な気候条件のもとにある沖縄では、カビの活性化や虫害のリスクが高いと言えます。これらの害によつて資料が劣化することを防ぐためには、保存に適した環境を維持することが大事です。日頃の環境チェックは、地味ながらとても重要な業務です。

従来は、カビや虫などの生物被害を防ぐために、薬剤が用いられていました。近年は環境や人体への影響を考慮して、できるだけ薬剤に頼らずに予防的措置をとる「IPM」の手法が推奨されています。虫や汚れを書庫に持ち込まないように、職員ひとりひとりが心がけています。環境管理は、資料の保存業務の一環なのです。



書庫内の温湿度の制御装置やシステムで環境をモニタリングしています。



書庫に履物の汚れを持ち込まないようにしています。



保存書庫に入れる前に殺虫等の処理をします。



バグトラップを設置して虫害抑止のためのデータをとります。



書架の清掃作業、資料をほこりから守ります。

資料の種別	
種別	書
種別	図
種別	写
種別	録
種別	音
種別	電
種別	機
種別	他
種別	未

調査の結果	
調査項目	調査結果
カビ	あり / なし
虫	あり / なし
その他	あり / なし

調査の状況	
調査日時	
調査場所	
調査者	
調査内容	
調査結果	
調査場所	
調査日時	
調査者	
調査内容	
調査結果	

補修前に資料の状態をチェックするシートを作成します。

## 保存処置

大きな赤瓦の建物が目をひく沖縄県公文書館。展示室や閲覧室は誰でも入ることができですが、その後ろ側はバックヤードでは、どんな作業をしているのでしょうか。シリーズ第3回となる今回は「保存」のしごとにスポットをあてます。

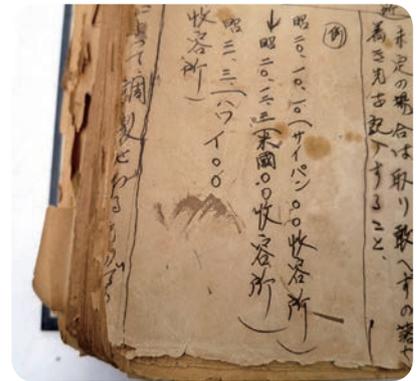
安全な環境を整えながら、その中で保存している個々の資料の状態を調査し、必要な措置を検討します。状態調査では、劣化損傷の度合いを判定し、どのような措置を要するか判断します。すべての資料に対して一斉に措置することはできないので、措置にとりかかる優先順位を検討することが重要です。調査に基づき、適切な手当てをしていきます。



補強に用いる和紙のテープは繊維がなじぶよう手で裂いて作ります。



クリーニングして伸展し、和紙のテープで四方を補強します。



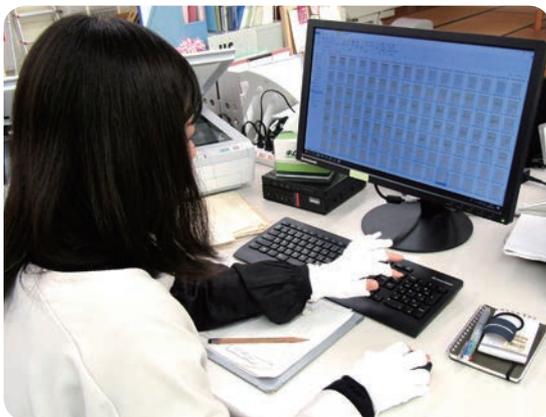
捕虜収容に関する貴重な文書。紙質が悪く破損や変色が進んでいます



製本補修室での作業



破損部分を補修してデジタル化作業に備えます。



スキャンしたデジタル画像をチェックします。



補修の済んだ資料をスキャンして代替物を作成。



閲覧カウンターで手袋をお貸ししています。

資料の長期保存には、利用者のみならずの協力も不可欠です。原資料を閲覧する際には、丁寧に扱い、清潔な手や手袋の使用を心がけていただくことなどを願っています。

## 代替化

原資料から複製物を作り、それを利用して供することも、保存対策のひとつです。当館ではデジタル化を進めており、この代替化によって、利用による劣化から原本を保護することができます。

また、変色・褪色がいちじるしい場合は、早いうちに現状を撮影しておく必要があります。代替化計画も、利用頻度や、媒体の特質に応じて立案します。



紙以外の資料も代替化します。写真はカセットテープ音源のデジタル化作業。

当館は、米国立公文書館（NARA）から、沖縄戦やその後の沖縄統治に関する資料を収集し、幅広く活用されています。一度は訪ねようという計画を実現したお二人に、NARAの見学記をうかがいました。



メリーランド州にある新館前で

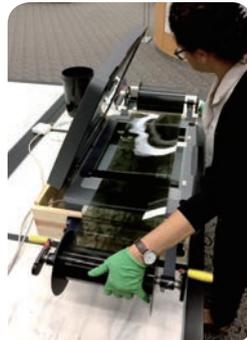
私達は、公文書館業務に携わっていて、NARAがどんなところなのか関心があり、昨年十月に現地を訪ねることにしました。

ワシントンDCから直行バスで四〇分の新館（メリーランド州）に向かい、利用証を作成して閲覧室に入ると、ガードマンが行きかうなどの厳しいセキュリティが感じられました。資料探しの相談スタッフもいますが、最終的には自力で、それも

## 私とアーカイブスⅧ

松原文美さん 津覇美那子さん = NARA 見学記 =

紙の目録で検索します（目録データベース化されているのは全体の三〇程度とのこと）。NARAでは利用する側のスキルが相当に必要だと思いました。三階の一角では、沖縄県が進めている空中写真の新規収集プロジェクトチームが作業する現場を見学でき、収集の苦労を理解できました。



新館でのフィルムのスキャニング作業

新館とは別に、ワシントンDCの中心地に本館があります。ここではリサーチ目的というよりも、アメリカの歴史に触れる体験型展示が楽しめます。デジタル技術や映像・音声を十分に活用して、何度でも行ってみたい空間でした。展示では、マイノリティーや労働者などもとり上げ、人権感覚、主権者意識をテーマにしているところも印象的でした。短い訪問でしたが、多くの学びがありました。

沖縄県公文書館 所蔵資料展

# 空中写真にみる 沖縄のかたち

Aerial photographs

開催中！  
9月2日まで



灰燼の那覇 1945年7月1日 【ON27821 025】



本部町 上本部飛行場跡一帯 1977年11月24日  
\*国土地理院所蔵空中写真 【COK771-C17-2】



本部町 上本部飛行場一帯 1946年4月19日【16556 009】  
\*当館所蔵 米軍が建設した飛行場が目立つ

当館では、平成一三年度から米軍撮影空中写真を収集し、閲覧室内に画像閲覧検索システムを設置して、利用の便宜を図ってきました。平成二十九年度にシステムをリニューアルし、高精細画像三八〇一枚（全九十五コース）の空中写真を検索閲覧できます。これらの空中写真に記録された沖縄のすがたを紹介する資料展を開催中です。戦闘によって焦土と化した沖縄、戦火を免れて残った集落の原風景、戦後の復興や開発でさらに変貌を遂げた現在を空中写真でつなぎます。

平成二十九年七月〜平成三十年二月

# 新規公開文書のお知らせ

閲覧室でご利用になれます

## ■沖縄県福祉保健部福祉・援護課文書

沖縄県は、戦傷病者戦没者遺族等援護法や恩給法等に基づき、公務上負傷疾病、死亡した軍人軍属等またはその遺族に対して年金や一時金を支給する業務を行っています。当館へ引渡された文書を整理し、次の通り目録を公開しました。個人の受給権に関する記録であるとともに、戦争の実態が検証できる歴史資料として重要な文書と言えます。

▼戦傷病者戦没者遺族等の援護に関する文書 (三十七冊)

「準軍属傷病者名簿」や「援護法適格者名簿」など。

▼戦闘参加者に関する文書 (三十五冊)

「戦闘参加者該当予定者名簿」や「戦闘参加者申立書」など。

▼旧軍人軍属の復員処理に関する文書 (七十三冊)

「開拓団名簿」「満州・北鮮・樺太千島における日本人の日ソ開戦以後の概況」「調査票 旧軍人軍属(サイパ

ン島)」「日本人墓地埋葬者名簿(ソ連)」など。

▼障害年金の支給に関する文書 (七十一冊)

「障害年金裁定通知書」や「障害年金請求調査書控」など。

▼遺族年金・遺族給与金・弔慰金の支給に関する文書 (四十一冊)

「遺族給与金・弔慰金等請求書類裁定済」や「遺族年金等未裁定者連名簿」など。

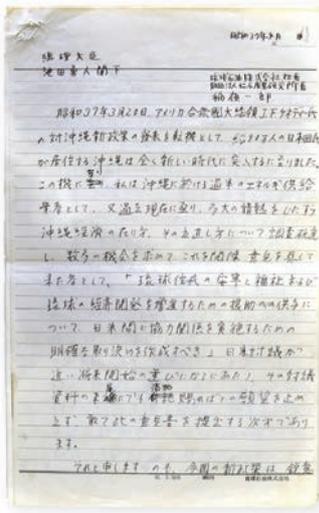
## ■沖縄関係資料

▼稲嶺一郎文書 (二二六〇冊)

稲嶺一郎氏(一九〇五年―一九八九年)は、国頭郡本部村で生まれ、米軍統治下の一九五〇年(昭和二十五)に琉球水産連合会長となり、同年に琉球石油株式会社を創設して社長に就任しました。一九七〇年(昭和四十五)の国政参加選挙と翌年の参議院議員選挙で当選し、以後十三年間、沖縄選出議員として沖縄振興開発や海洋博、国際

センターの誘致などに尽力しました。また「ミスターアセアン」と呼ばれ、日本の政治家のなかでも東南アジアに精通した外政家でもありました。

これらの文書は元沖縄県知事稲嶺恵一氏から受贈し、一九五〇年代から一九八〇年代にかけての沖縄の政治・経済・社会に関する文書が中心となっています。琉球石油株式会社の実業展開に関する文書、沖縄産業開発関係文書、戦後の海外移民関連文書、参議院議員時代の沖縄振興開発関係文書などがあります。



ケネディーの新沖縄政策発表後に、沖縄の経済構造の抜本的改革について内閣総理大臣池田勇人に宛てた稲嶺一郎の意見書(草稿) [0000030986]

## ▼徳田美枝子文書(四点)

大日本婦人会沖縄県支部の会員だった徳田美枝子氏が保管していた文書が、ご子息の山路安清氏から寄贈されました。早川房子(第二十五代沖縄県知事早川元夫人)からの書簡、一九四〇年代の新聞スクラップ、沖縄県立女子工芸学校愛国子女団記念写真があります。



沖縄県立女子工芸学校愛国子女団 記念写真 [0000127765]

## ▼神山長蔵文書 (十七冊)

琉球政府職員として日本復帰記念事業を担当した神山長蔵氏のご遺族である福元ゆかり氏から寄贈されました。復帰記念式典事務局設置要綱、記念行事予算概算などが含まれています。

# シマめぐり沖縄 第8回 国頭村

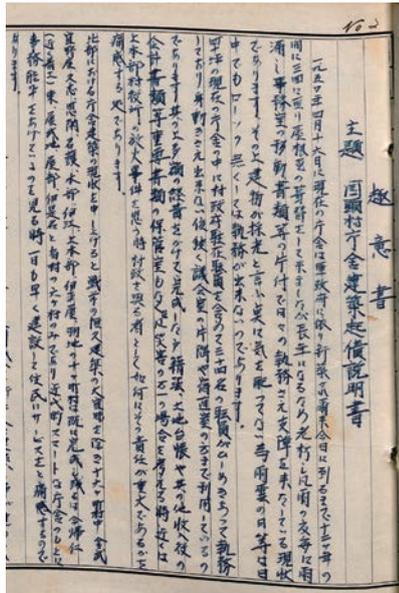
沖縄本島最北端に位置する国頭村は、20の字から成る人口4,871人の村です(平成29年12月末現在)。村の面積は194.8km<sup>2</sup>、県内市町村では5番目の広さです。その約84%を山林が占め、長い海岸線とともに描き出される豊かな自然は、まさに「やんばる」の典型と言えるでしょう。



旅館へんとな  
スーツの男性らは琉球政府職員 国頭村辺士名  
1965年5月 琉球政府関係写真資料 043 【012207】

戦前から使われていた国頭村役場庁舎が老朽化し、一九五〇年(昭和二十五)に米軍政府が瓦葺き庁舎を建設しました。しかしこの庁舎の劣化が著しく、村及び協議会は、一九六二年(昭和三十七)に委員会を設置して新庁舎建設に動き出しました。

その趣意書には、雨漏りや採光不足の状況、執務室も手狭で、地籍簿、土地台帳などの重要書類の保管室もなく、災害など万が一の場合を考えると責任重大であること、新庁舎建築費の一部である三万ドルを借り入れ、五年以内に村有林野を売却して償還すると記されています。一九六三年(昭和三十八)、二階建て延べ床面積三〇〇坪の近代的な新庁舎が建設され、外観は当時のまま現在も使用されています。



「起債関係書類」 1962年  
琉球政府文書 【R00002971B】



「楚洲で行われた1周線道路開通式典」 1963年4月30日  
琉球政府関係写真資料009 【002160】

山深い国頭村内では、道路の整備が村民の長年の悲願でした。一九五六年(昭和三十一年)に与那—安田、一九六二年(昭和三十七)に辺戸—奥が開通し、バスの往来や農作物や生活用品等の輸送が容易となりました。奥—安田の道路は一九六三年(昭和三十八)に開通して軍道十三号線と連結、夢の一周道路が完成して、「陸の孤島」と言われた奥、楚洲、安田の交通難が解消しました。



「フェイ台風国頭村被害状況写真 台風第14号」 1957年9月26日  
琉球政府文書 【R00083497B】

一九五七年(昭和三十二)九月、沖縄地方に接近した台風十四号フェイは最大瞬間風速六十一・四メートルを記録しました。国頭村でも、伊地神松や建設中の辺士名劇場のブロック塀が倒壊、鏡地の塩田が埋没して廃業するなど大きな被害が出ました。写真は、全壊した比地の茶工場。このほかに鏡地、辺士名、宇良、伊地、与那の被害状況の記録が残っています。

国頭移動展  
開催します

平成三十年三月七日(水)～十一日(日)  
場所：国頭村民ふれあいセンター

# 公文書館で学ぶ！

当館主催の講演会等に、多くのおみなさまにご参加いただき、ありがとうございました。7月以降の行事に参加したみなさんの声を紹介します。



## 【講演会】 下河辺淳文書に見る「沖縄と日本」の構図

7月15日(土) 講師：江上能義 琉球大学名誉教授

「県外出身者でここまで沖縄の視点に立って沖縄問題に取り組んだ方がいたと知って意外に思いました。ですが、沖縄の人と県外の人とでは埋まらない溝があったことも改めて感じました。」(20代)

## 【公文書活用講座】 米軍作成の沖縄戦関係資料

9月9日(土)

「当館所蔵の沖縄戦関係資料の概要」

講師：吉嶺昭 (公財) 沖縄県文化振興会公文書主任専門員

「米軍作成の記録を活用する視点」 講師：吉浜忍 沖縄国際大学教授

「米軍資料が沖縄戦の実態を解明するのに画期的な資料なのだととてもよくわかりました。公文書館の利用講座もとてもわかりやすく、勉強になりました。ぜひ活用したいと思います！」(20代)



吉浜 忍先生



## 【上映会2】 日本復帰前の沖縄—映像にみる戦後

10月21日(土) 上映作品①「沖縄」1963年(昭和38)、②「ドキュメント 復帰協闘争史」1977年(昭和52)

「沖縄の歴史については今の若い者にもぜひ見ていただきたい。沖縄は素晴らしい琉球王府時代、苦しい沖縄戦時代があることを写真、映像でもっとアピールすべきだと思います。この様な会はもっとあって良いと思います。」(60代)

## 【資料保存講習会】 酸性劣化した紙資料の保存修復

11月24日(金) 講師：飯島正行 (株)Conservation for Identity

「紙がなぜ酸性なのか、劣化するようになるのか、という導入から実際に酸性の成分を抜く作業に移ったことでとても理解がしやすかった。貴重な資料を自力で洗浄・脱酸・処理するのは緊張しますが、業者に委託することを含め、紙の劣化をくい止めるための意識が強まりました。」(20代)



## 【公文書管理講座】 歴史公文書を災害から守る

12月11日(月) 講師：青木睦 国文学研究資料館 准教授

「文書を守る為に管理、修復作業が大変な事が分かりました。貴重な文書を守る為にしっかりとした日常管理が重要で、災害から命も文書も守らなくてはならない必要性を実感しました。」(40代)

\*当館HPで近年の講演・講座の動画を視聴できます。  
トップページ>行事案内>過去の講演・講座を見る  
[www.archives.pref.okinawa.jp/event\\_information/on\\_demand](http://www.archives.pref.okinawa.jp/event_information/on_demand)

## 全史料協全国大会、 沖縄で20年ぶりの開催決定！

全史料協（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会）は、昭和51年発足、文書記録を中心とする記録史料を保存し利用に供している機関会員と、個人会員で構成する全国的な団体です。全史料協は会員相互の連絡と連携をはかり、研究協議を通じて記録史料の保存利用活動の振興に寄与することを目的としています。

第44回全国大会は、沖縄県市町村自治会館を会場に、平成30年11月8日と9日の2日間にわたって開催されることとなりました。当館も開催地として、実り多く地域に開かれた沖縄大会となるよう努める所存です。



平成29年11月10日、第43回神奈川相模原大会会場  
相模原市立公文書館長(左)からリレーを受ける沖縄  
県公文書館長(右)

### 北谷町公文書館開館25周年記念事業 公文書館活用講座 「アーカイブズで北谷のあゆみを知る」

北谷町公文書館は、国内初の町立の公文書館として平成4年4月1日に開館しました。開館25周年を記念して各種の行事が開催され、その一環である公文書館活用講座「アーカイブズで北谷のあゆみを知る」で、当館の職員も講師を務めました。現在、県内の公文書館は、当館(平成7年開館)と北谷町の2館のみです。北谷町の取り組みにならって、市町村の公文書館設置に向けた動きが広がることが期待されます。



平成29年12月20日、ちやたんニライセンター講堂  
で開催された講座の様子



フィルム・テープ保管庫での説明



### 公文書館バックヤードツアーを 開催しました

平成29年12月11日、公文書館の施設や機能をご紹介するバックヤードツアーを開催しました。このツアーは、公文書管理講座の内容をより深く理解していただくため、毎年講座と合わせて実施し好評を得ています。

「公文書館の案内は良かった。保存室や文書の修復作業にはご苦労を感じました。膨大な文書の廃棄作業に労力を要していることもおどろきであった。公文書館は生きた文書管理の要であることが理解できた。」(60代)

## 利用案内

- ▶開館時間：午前9時～午後5時（閲覧申請は午後4時30分まで）
- ▶休館日：月曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)、6月23日(慰霊の日)
- ▶利用について：入館は無料です。書庫内資料の閲覧には「利用証」が必要です。  
「利用証」発行には、現住所が確認できる身分証明書をお持ちください。
- ▶交通案内：那覇バス 系統番号 1,2,3,4,5,14,15,16 「新川営業所」徒歩3分  
東陽バス 系統番号 191「県立南部医療センター前」徒歩10分  
\*駐車スペースが限られていますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

